

2017年5月30日

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松村, 茂樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/6793

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



2017年5月30日

大学院国際文化専修代議員・コミュニケーション文化学科教授 松村茂樹

表題に掲げた「2017年5月30日」は、どのような日かご存知ですか？この日は「改正個人情報保護法」が全面施行され、いわゆるビッグデータのビジネス利用が日本で可能になった日です。この日から日本社会は大きく変わっています。この日までは、例えば、モノやサービスに利益や手数料を加えて売るという「こちら側」のビジネスが主流でした。ですが、この日以降は、例えば、無料でサービスを提供し、アクセスした人のデータを集約して利用するという「あちら側」のビジネスが大きく展開されているのです。これが大学の学問を本来の道に戻すことになります。

これまでの日本社会では、高度成長により形成された日本型システムにすんなり馴染む人が求められ、大学でもそれに応じ、知識・技能偏重の教育が行われてきました。ところが、バブル崩壊後、「失われた30年」になんなんとする状況の下、日本でも新たな提案のできる人が求められるようになり、大学もまたそれに応じ、コミュニケーション文化学科のような、「現代性」「国際性」「学際性」をキーワードに、領域横断型カリキュラムにより、新たな分野を創成し、新たな提案をして問題解決を図ろうとするとともに出てきたのです。

これは大学にとって、学問にとって喜ばしい変化です。なぜなら、学問とは、興味の対象に疑問を持ち、仮説を出し、それに根拠となるデータを持ってきて論証するものであり、これからのビジネスはこの「学問の王道」を応用して進められて行くからです。そして、「2017年5月30日」以降、新規事業提案にあたっては、ビッグデータの中から必要なデータを取り出して根拠とすることになります。データの取り出しはデータサイエンティストの同僚がしてくれます。その同僚とつながるコミュニケーション能力も必要となるのは言うまでもありません。

この上に、私たち文系の学問をしている者が最も得意とする本質探究の能力が発揮されれば、新規事業提案は万全のものとなります。文系の学問は「考える」ことにより、何かを明らかにしようとするものですが、このプロセスを積み重ねることにより、物事の根本的な性質、つまり本質が見えてくるのです。例えば、食品の本質は何でしょうか？少なくとも摂取する人に害を与えるものではないはずです。さすれば、新製品の提案にあたり、本質がわかっている人は、見栄えは良いが身体に良くないものを取り上げることはないでしょう。これは、金融の本質、メディアの本質、教育の本質等々、どのようなことにもあてはまります。このような本質探究能力を具え、データの根拠に基づいて提案を行える人が、「失われた30年」になんなんとする日本で、今、切実に求められているのです。

大学院国際文化専修では、このような能力を具えて社会に貢献できる人を世に輩出したいと願っています。コミュニケーション文化学科では卒業研究が必修となっており、これに対応していますが、やはり、大学院に進み、本格的な研究を修士・博士論文にまとめ、上記の能力を確固たるものとするに越したことはありません。「2017年5月30日」、日本はすでに変わっています。この変化を前向きに捉え、「学問の王道」によって、社会に貢献できる能力を具えたいと志す方が、一人でも多く大学院の門を叩いてくれることを願ってやみません。